

令和2年8月17日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和2年8月17日(月曜日)

午後3時30分から午後4時30分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 金澤 俊道 委員 鷲尾 達雄 委員 青柳 由美子
委員 大久保 真紀 委員 荒木 正

4 職務のため出席した者

教育部長	小池 隆宏	子ども未来部長	水島 幸枝
教育総務課長	水島 正幸	教育施設課長	遠藤 雄一
学務課長	笠井 晃	学校教育課長	中山 玄
学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之	学校教育課主幹兼管理指導主事	丸山 巧
学校教育課主幹兼管理指導主事	涌井 良平	中央図書館長	佐藤 陽子
科学博物館長	小熊 博史	子ども・子育て課長	田中 剛
保育課長	長谷川雅泰		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	植村 裕	教育総務課庶務係長	内藤 貴幸
教育総務課庶務係	本田 雄一		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 47 号	長岡市立学校通学区域規則の一部改正について
3	第 48 号	令和元年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について
4	第 49 号	条例改正の申出について (長岡市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正)
5	第 50 号	条例改正の申出について (長岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正)
6	第 51 号	補正予算の要求について
7	第 52 号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

7 会議の経過

(金澤教育長) これより教育委員会 8 月定例会を開会する。

◇日程第 1 会議録署名委員について

(金澤教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、青柳委員及び大久保委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 47 号 長岡市立学校通学区域規則の一部改正について

(金澤教育長) 日程第 2 議案第 47 号 長岡市立学校通学区域規則の一部改正に

ついて を議題とする。事務局の説明を求める。

(笠井学務課長) 経営体育成基盤整備事業川東中央地区の町の区域及び名称変更に伴い、規則を改正するものである。改正後の規則には、別表第1 栖吉小の項中の末に川中を加える。また、土地改良法第89条の2第10項において準用する同法第54条第4項の規定により、換地処分の公告のあった日の翌日から施行する。

(金澤教育長) 質疑・意見はあるか。

(金澤教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

◇日程第3 議案第48号 令和元年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について

(金澤教育長) 日程第2 議案第48号 平成30年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について を議題とする。事務局の説明を求める。

(小池教育部長) 7月3日に事務評価委員会を開催し、事務局からの説明及び質疑応答を行った。そして、本日8月17日に事務評価委員会から「点検及び評価結果」の提出があり、全体を通しての意見として大きく3点いただいた。まず、1点目は、『長岡市教育振興基本計画に沿って着実に施策が実施され、成果を挙げてきている。一つ一つの内容について、丁寧に継続して取り組んでいる様子が感じられる。』ということ。2点目は、『社会の課題や市民の多種多様なニーズに応え、子どもたち一人ひとりの個性を尊重しようとする姿勢が感じられる。関係機関との連携を重視し、きめ細かな対策がなされていることを大いに評価する。』ということ。3点目は、『子どもや保護者に寄り添い、それぞれの現場を大切にしながら教育環境の充実に取り組んでいる。』ということの高い評価をいただいた。一方で、『今後は、大学や附属学校・園等、市内所在の教育機関・研究機関とのより一層の連携強化を望む。』と『人づくりの視点と同時に、人口減少に歯止めをかけるため、教育行政としても具体的な施策の検討が必要である。』という要望と課題をいただいた。教育

委員会の開催及び審議状況についての意見と、教育委員会における事務の点検・評価についての意見は報告書の通りである。いただいた意見を参考に、今後もより良い教育環境や効果的な事務事業につなげていきたい。なお、評価報告書本体は、6月11日の教育委員会協議会でいただいた意見と事務評価委員会での意見を反映し、一部修正を加えている。最後に、本日決定する評価報告書は、9月議会に提出し、報告をする。

(金澤教育長) 質疑、意見はあるか。

(鷲尾委員) 熱意と責任感を持って取り組んでいる様子が伝わっていて、良いと思う。その中で、今後は、大学等様々な研究機関と一層の連携強化を望むということだが、具体的にはどのような要望だったのか。

(水島教育総務課長) これまでの産学連携や幼保連携だけでなく、より発展的な視点としていただいた要望だった。

(金澤教育長) 学校では高専、技術科学大学や造形大学があり、研究機関では栖吉の雪氷研究所があるが、それらとの連携強化の具体的な内容として要望があったのか。

(水島教育総務課長) 具体的な内容まで踏み込んだ要望はなかった。

(金澤教育長) 学校教育課において、先の見通しとして考えがあったら説明を求める。

(中山学校教育課長) 後ほど紹介する科学探求塾では、子どもたちが自主的に熱中！感動！夢づくり教育に、高専、技術科学大学との連携した内容を取り込み、つながりを持たせたいと考えている。

(金澤教育長) 事務評価委員からは具体的な要望はなかったが、事務局としての方向性はあるということでしょうか。

(荒木委員) 長岡にはたくさんの教育財産があるが、まず連携を担う組織がないので、アイデアがあっても空中分解していた。また、大学生は、小学生から見ればとても先に見えるものかもしれないが、そうではないと考える。例えば、高専のロボコンは憧れの的で、その憧れの的が高専のほか、技大にもあり、造形大にもあるが、なかなか子どもたちとの接点を作ることができないでいる。しかし、子どもたちが興味関心を持っていることから、接点は作りやすいはずである。そこからキャ

リア教育につなげることもでき、長岡にも魅力ある企業があるという意識を高めていくためにも、まずは組織を介して、お互いに連携ができるかどうか探ることが重要だと思う。

(小池教育部長) 事務評価委員からは具体的な要望はなかったが、事務局の受け止めとしては、熱中！感動！夢づくり教育のイメージ図にある真ん中の柱となる学校教育の充実について、先進的な取組を進めている附属小中学校のノウハウを学ぶこと、市立学校の数ある貴重な事例を附属小中学校へ情報提供することなど、意見交換して充実を図っていく面もあるし、オール長岡で育てるという面もある。市民団体だけではなく、専門的な教育機関を含めて進めていくというものである。

(金澤教育長) 他に、質疑、意見はあるか。

(金澤教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

◇日程第4 議案第49号 条例改正の申出について（長岡市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）

(金澤教育長) 日程第4 議案第49号 条例改正の申出について（長岡市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）を議題とする。事務局の説明を求める。

(長谷川保育課長) 厚生労働省令が改正されたことに伴い、市町村長が定めることとされている条例についても改正を行うものである。まず、家庭的保育事業等については、主に3歳未満児を対象に保育を提供するものであり、長岡市内には小規模保育施設が12施設、188名の子どもがおり、事業所内保育施設は7施設、44名の子どもがいる。改正内容としては、卒園後も必要な教育または保育が継続的に提供されるよう、原則として、卒園後の受け皿となる連携施設を確保することとされているが、当該連携施設の確保が著しく困難な場合であって、市長が、卒園後も保護者の希望に基づき、引き続き必要な教育または保育が提供されるよう必要な措置を

講じている場合には、当該連携施設の確保を不要とすることを認めるものである。実態として、長岡市内の小規模保育・事業所内保育の施設は、すべて連携施設を確保しているため、条例改正の影響はないと考えている。また、居宅訪問型保育事業における改正内容は、居宅訪問型保育を提供する必要性が高いと認められる場合の例示に、「保護者の疾病、疲労その他の身体上、精神上若しくは環境上の理由により家庭において乳幼児を養育することが困難な場合」を加えるというものである。なお、長岡市内に居宅訪問型保育事業者はいない。施行期日は公布の日からということで、9月議会終了後から施行するものである。

(青柳委員) 長岡市内の事業所内保育施設の利用は、7施設で44人ということであるが、従業員の子ども以外に、地域において保育を必要とする子どもの人数はどのくらい存在するのか。

(長谷川保育課長) 正確な人数内訳はないが、例えば、西病院の併設施設や田宮病院のひまわり保育園については数人の事例がある。

(金澤教育長) 他に、質疑、意見はあるか。

(金澤教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

◇日程第5 議案第50号 条例改正の申出について（長岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正）

(金澤教育長) 日程第5 議案第50号 条例改正の申出について（長岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正）を議題とする。事務局の説明を求める。

(長谷川保育課長) 本条例は子ども・子育て支援法が根拠法令であり、基づく法令は異なるが、先ほどの条例改正と対象施設は全く同じである。改正内容についても、同様に、卒園後の受け皿となる連携施設を確保することとされているが、当該連携施設の確保が著しく困難な場合であって、市長が、卒園後も保護者の希望により、

引き続き必要な教育又は保育が提供されるよう必要な措置を講じている場合にあっては、当該連携施設の確保を不要とすることを認めるものである。

(金澤教育長) 質疑、意見はあるか。

(金澤教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

◇日程第6 議案第51号補正予算の要求について

(金澤教育長) 日程第6 議案第51号 補正予算の要求について を議題とする。事務局からの説明を求める。

(水島教育総務課長) 教育総務課の補正予算は、歳入補正額が1,341万2千円、歳出補正額が2,657万4千円である。歳出の補正は2つの事業で区分され、1つ目は、国の第二次補正を活用し、感染症対策と学習保障のための予算を各学校に配分するもので、小学校費、中学校費、総合支援学校費の総額が2,632万4千円である。そのうち2分の1が交付金のため、1,316万2千円を歳入で補正している。2つ目は、学校図書の充実に役立ててほしいと寄附の申出があったため、寄附者の意向に沿い、中学校図書を25万円分購入するものである。

(遠藤教育施設課長) 教育施設課は、歳入補正額が8億700万5千円、歳出補正額が7億9,041万8千円である。歳出は、国の補正予算に伴い、来年度に予定していた上通小学校の暖房設備の改修、四郎丸小学校のトイレと空調の大規模改造工事、旭岡中学校の共同調理場(新增築)の整備の計3工事を本年度に前倒し実施するため、補正するものである。なお、3工事はともに年度内の工事完了が見込めないため、次年度に繰り越すものである。歳入は、これらに係る国庫補助金を補正しているものである。

(鷲尾委員) 共同調理場について、まず確認になるが、自分の学校以外の給食も受け持つということによいか。

(遠藤教育施設課長) 親と子の関係で、親で給食調理を実施し、子に送る仕組みで

ある。

(鷲尾委員) 旭岡中学校の場合は、どのような親子になるのか。

(遠藤教育施設課長) 旭岡中学校と隣の豊田小学校、柿小学校の3校について、特に旭岡中学校と隣の豊田小学校のエリアは、児童生徒数の増加により、将来的に食数が増えることに伴い、配食が間に合わなくなる恐れがあることから、旭岡中学校の敷地の一部を増築し、共同調理場を作るものである。そこでは、旭岡中学校が親となり、隣の豊田小学校、柿小学校に給食を配食するものである。

(鷲尾委員) 3校で完結する構想なのか。それとも今後、調理師の退職や民間委託も視野に入れ、共同調理場がエリアの基幹となって、将来的には3校に留まらない構想があるのか。

(小池教育部長) 現時点では、旭岡中学校と豊田小学校の児童生徒数の増加があり、物理的に豊田小学校の敷地内には共同調理場の増築はできないため、親子方式にする。また、柿小学校については、給食室の老朽化があったことと、共同調理場での食数にもまだ余裕があったことから、柿小学校を含めているものである。ただし、今後、児童生徒数の減少や外部環境の変化が生じた場合には、改めて検討する必要があると考えている。

(笠井学務課長) 学務課は歳入補正額が1億4,371万4千円、歳出補正額が1億4,061万1千円である。まず、歳出から説明する。今ほど説明のあった旭岡中学校共同調理場整備事業費の備品購入費において、来年度に予定していた事業を本年度に前倒し実施するものであり、これに対する歳入は、国庫補助金の受入と市債を充てるものである。

(中山学校教育課長) 学校教育課は、歳入補正額が431万4千円、歳出補正額が987万8千円である。歳出について説明する。遠隔教育推進事業費として2つある。

1つは、学校現場において、1人1台導入されるタブレットなど機器の取り扱いや活用方法等に関して、教職員への技術的なサポートを行うアドバイス業務を民間IT事業者に委託して支援するものである。概ね3時間のアドバイス業務を各校3回程度見込んでいる。もう1つは、教育センター研修室等において必要な環境整備を行うものである。現在、研修室にはネットワーク環境がないことから、教職員へのICT機器活用能力向上のための支援として、教育センターの研修室講座を充実さ

せ、各研修室で研修を受けるための環境整備を行うものである。歳入補正は、民間 I T 事業者への委託事業に対して、国庫補助金を受け入れるものである。

(田中子ども・子育て課長) 子ども・子育て課は、歳出補正額が 1,774 万 2 千円である。これは、令和元年度に実施した児童手当の給付において、事業費が確定したことに伴い、国・県から受け入れた負担金を精算し、過剰分を返還するものである。

(長谷川保育課長) 保育課は、歳入補正額が 6 万 9 千円、歳出補正額が 1,291 万円である。これは、令和元年度の事業費確定に伴い、歳入は国や県からの精算金の受入であり、歳出は返還金である。

(金澤教育長) 質疑、意見はあるか。

(金澤教育長) 学務課の補正予算について、歳出額より歳入額が多いが、その理由は何か。

(笠井学務課長) 整備費に係る事務費 310 万 3 千円を補助に充ててよいとされていることから、歳入額に計上しているためである。

(金澤教育長) 事務費は、国の補助になるということでよいか。

(遠藤教育施設課長) 教育施設課の補正額も歳入補正額が 1,600 万円程度多くなるが、これも同様に、国からこの事業に係る事務費を補助に充ててよいとされていることから歳入額に計上しているものである。

(金澤教育長) 歳出に事務費という記載がないのは、事務局内部で行う事務であるからか。

(遠藤教育施設課長) 実際は、職員が通常業務のなかで行っているが、本事業に関する事務費は計上してよいこととされている。

(金澤教育長) 他に質疑、意見はあるか。

(金澤教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(金澤教育長) 日程第7 議案第52号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について を議題とする。

(金澤教育長) 定例会前の表彰ヒアリングを踏まえ、各表彰候補者について、表彰者として適している否かを決定する。対象者は、条項第3号の3名、第5号の1名、第6号の6名、第7号の5名、第8号の3名である。全員を「適」として決定したいと思うが、いかがか。

[全員了承]

(金澤教育長) 候補者全員、「適」と決定する。

(金澤教育長) 以上をもって、本日の議案の審議については終了した。

(金澤教育長) 次に、協議報告事項に移る。附属機関等会議報告について、事務局の説明を求める。

(佐藤中央図書館長) 7月29日に開催した令和2年度第1回長岡市図書館協議会について報告する。会議内容のうち、報告事項は令和元年度図書館活動評価と令和2年度の運営方針についてである。協議事項は令和2年度図書館活動評価(案)についてである。会議では、新型コロナウイルス感染症の影響で3月に貸出冊数が大幅に増加したこと、4月以降は貸出冊数と来館者数が大幅に減少したことについて意見があった。毎年、図書館の来館者数は、目標を設定し、達成できたかどうか確認しているのだが、今年度はどのような目標設定をするか委員から意見があった。続いて、7月13日に開催した令和2年度第1回長岡市栃尾美術館協議会について報告する。会議では、令和元年度後期事業報告、令和2年度事業計画(案)、収集資料についてのほか、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対策について協議した。委員からの主な意見として、上組小学校に学芸員を派遣させ、栃尾美術館の作品を貸し出し、校内で展覧会をする取組を行ったところ、委員からは良い取組であったと評価いただいた。

(小熊科学博物館長) 7月10日に開催した水族博物館協議会について報告する。会議の内容は、正・副委員長の互選、令和2年度事業実施計画・状況及び水族博物館整備事業の計画(概要)について協議した。主な意見として、新型コロナウイルス

ス対策について質問があり、館内消毒等の実施の徹底、今後はAI 体温検知カメラと非接触式体温計を導入し、さらに、繁忙期には、駐車スペースを一部縮小して、混雑しないようにしたと回答した。また、水族博物館の改築の質問については、「にわかには建て替えという判断は今の段階ではできないが、水族博物館協議会の議論を大切にしながら、さらには経済状況及び市の財政状況も考慮して引き続き検討をしていく」と3月市議会で市長が答弁した内容を伝えた。

(田中子ども・子育て課長) 7月27日に開催した令和2年度第1回長岡市子ども・子育て会議について報告する。今年度は委員の改選もあり、新たなメンバーで初めての会議であった。会議内容は、まず委員長・副委員長の選出、長岡市子ども・子育て会議、そして、子育て支援施策についてである。委員から出た意見としては、小中総合支援学校に1人1台のタブレット端末が配備されることについて、メディア依存の課題について検討してほしいとか、夜間の助産師訪問の要請について意見があった。そのほか、子育て支援の場に父親が参加しやすい環境づくり、夫婦で子育てすることの大切さについて意見交換した。最後に、アドバイザーからは、第2期計画の初年度として、長岡市の子ども・子育て環境をいかに高めていくかということが課題であるとして会議を閉会した。

(大久保委員) 図書館協議会報告について、小学生への貸出件数は増えたとあるが、中学校も臨時休校していたが、中学生への貸出件数はどのような状況であったのか。

(佐藤中央図書館長) 小中学生それぞれに内訳を出していないが、委員の意見としては、低年齢の子どものほうがたくさん本を借りて家で読んでいたのではないかというものだった。中学生については、その場で特に意見は出なかった。

(金澤教育長) 小学生がどれくらい増加したかは把握しているのか。

(佐藤中央図書館長) 具体的な数値は把握していない。

(青柳委員) 同じく図書館協議会報告について、令和2年度の個人貸出冊数の目標値は、令和元年度に比べて2%の増加と設定したことに対して、委員からは設定値が高いとして根拠を問われている。しかし、例年はそれよりも高い数値であったことから、むしろ設定値を低くしたのではないか。

(小池教育部長) これは、令和元年度が過去最大の冊数であったが、コロナ禍もあって来館者数も減るだろうとの見込みで、例年ならば3~3.5%の増加としている

ところ、2%に設定したものであったが、2%でも高すぎるという意見であった。

(鷺尾委員) 小学校へ学芸員を派遣した取組について、児童はどのようなことを学ぶのか。

(佐藤中央図書館長) 児童が展覧会にお客さんと呼び、絵の説明をするにあたり、学芸員からどのようなポイントを説明すべきか学んでいた。

(鷺尾委員) 子育て会議の夜泣きが大変ということについて、知り合いの話であるが、従業員が産休明けの復帰にあたり、子どもの夜泣きがひどく、仕事との両立が困難であるために仕事を辞めたという話を聞いた。このような事例があるなか、民間企業との情報の共有化というのは進んでいるのか。

(田中子ども・子育て課長) 企業の方々の理解や促しといった部分は、今後力を注ぐ必要があると考えており、企業との情報共有の必要性も認識しているところである。また、夜に限らず、夕方に子どもが泣きくことに負担を感じているという声があり、助産師が訪問に行くケースもある。さらに、今年度から実施している「ままりラ」のイブニング枠に来ていただき、対応するケースもある。

(鷺尾委員) 福利厚生が手厚い大手企業ですら、利用できる制度はあっても、絵に描いた餅になってしまっている感はある。そのため、民間企業との情報の共有化は必要だと感じている。

(金澤教育長) 教育委員会から見ると、子育てをしている母親の目線で考え、一方、見方を変えて企業や市商工部から見ると、労働者という目線で考えることになる。しかし、その母親個人は一人であって、子育てで労働できなくなったという考え方ではなく、子育て、労働や家事等を含めて母親が大変だというのが実態である。それぞれが担当している目線のみでなく、いろいろな目線で考えなければ、より良い支援とはならないため、そこは共有する必要がある。全体的に個人をサポートする仕組みができると本当に必要な支援になると思う。

(田中子ども・子育て課長) この会議には市商工部もメンバーとして関わっているので、このたびの意見を伝えて反映していきたい。

(金澤教育長) 多胎児支援の場として「ままりラ」や「ままのまカフェ」があるが、ネーミングが「ママ」なので父親は参加しづらいという意見や、事業説明に「母親」の文言しか出てこないといった意見があるが、これらの意見に対する回答の有無や

考えがあれば説明を求める。

(田中子ども・子育て課長) この会議の場では、公募の委員からの意見として出されたところで終わっている。

(金澤教育長) 公の事業名や説明に「母親」や「ママ」という言葉しか出てこないという意見があるということは、長岡市はお父さんお母さんで子育てをしましようとしていることが表れていなかったり、かえって誤解を招いたりしてしまう恐れがある。これについて、何かしらの方向性、あるいは、回答はあるのか。もし、方向性などがなければ考えていく必要性があるのではないか。

(水島子ども未来部長) 事業の内容と事業名における言葉の結びつきの整理は、今後検討していきたい。一方で、「ママ」という言葉が出てくるのは、決して子育ては「ママ」だけがするものではないが、母子保健という観点で、母親の体調面や精神面として使っているものもある。しかし、使い方が混在してしまっているところもあるため、サービスを受けた市民から見て、誤解されないように検討していきたい。

(金澤教育長) 公募の委員から出た発言というのは市民感覚に近く、大事にしなければならぬと思う。継続してきた事業名を変更するのは難しい部分もあるが、検討を求めたい。

(水島子ども未来部長) 補足すると、「パパママサークル」というネーミングについても、パパが先か、それともママが先かという議論がある。言葉というのは本当に難しく、夫婦は一緒になって子育てするべきであることを踏まえつつ、市民の感覚というものをしっかり受け止めながら検討していきたい。

(大久保委員) 私事だが、「お父さんもお母さんも一緒に子どものインターネット利用を考えましょう」と講演会で話したところ、「シングルなのにそのようなことを言われたら、まるで責められているように感じる」との感想があり、そのような視点の必要性を改めて感じるがあった。言葉を選ぶときの参考にさせていただきたい。

(水島子ども未来部長) 家族の形態は様々であり、我々もそれぞれの視点を意識することは大切なことだと考えている。

(金澤教育長) 現在は、どこにいても赤ちゃんを抱えた父親を見かけるようになり、

今後5年度、10年後には、今よりも子育て世代が集まる場に参加したいという父親が増えている時代になるかもしれない。

(金澤教育長) 質疑・意見はないか。

(金澤教育長) 以上で、協議報告事項を終える。

(金澤教育長) 次に、催し案内等について簡単に説明を求める。

(中山学校教育課長) まず、長岡地域こども標本作品展について説明する。これは例年、小中学生が主に夏休みに作った標本作品を展示しているもので、さいわいプラザを会場に実施するものである。続いて、科学探求塾は、小学校5年生から中学3年生までで、事前申込により定員20名を対象に行い、概ね月1回、全4回のセミナー形式で実施する。これは、熱中！感動！夢づくり教育の新たな方策の1事業としているものである。

(佐藤中央図書館長) 長岡市栃尾美術館開館25年のあゆみ展についてである。本展では前期、後期に分けて紹介しながら、あゆみをふり返る。

(小熊科学博物館長) アルパカ特別展示について、春に好評であり、秋も同じく山古志からアルパカ2頭を借用して展示するものである。続いて、古関裕而直筆の楽譜公開は、NHK連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルである古関裕而さんが作曲した『越路小唄』の直筆の楽譜を、関連資料とともに展示公開する。なお、『越路小唄』は、昭和35年に越路町発足5周年記念事業で作られた曲である。

(金澤教育長) その他に報告事項はないか。

(金澤教育長) 新型コロナウイルス関連で、各担当課から報告事項があれば説明を求める。

(中山学校教育課長) 長岡市で受け入れる教育実習生に対して、PCR検査を実施することについて報告する。早い学校で8月24日から受入が始まり、より安全安心な教育活動を維持しながら、実習生にとってもより安心して実習に臨めるように支援するものである。検査費用は全額を市が負担する。また、実習生の受入にあたっての注意事項として、実習開始2週間前までに長岡市で滞在を開始し、以降は新潟県外への外出は控えることとしている。さらに、首都圏からの実習生もいることか

ら、実習開始3週間前からは、感染拡大地域への往来や感染リスクが高い場所の出入りは避けることを伝えている。

(長谷川保育課長) 保育実習について、9月以降、公立保育園で受け入れる予定の実習生11人については、学校と同じく対応する。私立・認定こども園については、安心して実習に臨めるように各保育園に働きかけて約60名の方が対象になると思われるが、PCR検査費用は公費で対応したいと考えている。

(中山学校教育課長) 8月20日から一部を雇用している消毒・清掃員について報告する。市立学校全84校への派遣のうち、80校分は市が直接雇用することとしており、夏休み明けの授業再開に向け、ハローワークを通じて、現在も募集・採用活動を続けている状況である。

(金澤教育長) 質疑・意見はないか。

(鷲尾委員) 消毒・清掃員の採用活動は、どの程度の進捗なのか。

(中山学校教育課長) 現在、40名程度の採用が決まっている。なお、消毒・清掃業務は、二人一組になり、各学校を午前と午後に回ることとしている。

(金澤教育長) 学校からの声かけをお願いすることも1つの手かもしれない。

(鷲尾委員) 民間のアルバイトや派遣会社に登録されている人材の活用を検討してみるのも1つだと思う。

(中山学校教育課長) 様々な方策を実施しながら、今後も人材確保に努めたい。

(大久保委員) 修学旅行や運動会の開催はどのような状況か。例えば中止とする場合は学校が判断して中止しているのか。

(中山学校教育課長) 修学旅行は、各学校の判断で延期したものであるが、延期した学校では、その後、保護者会を開き、感染拡大状況を見ながら判断を行っている。また、運動会については、夏休み明けに実施する学校が多いが、やり方そのものを縮小したり、来賓の出席を制限したりして、感染対策を講じたうえで開催の判断を行っている。

(金澤教育長) 他に質疑・意見はないか。

(金澤教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員